

吐いたら

嘔吐は子どもによくある症状です。乳児では、げっぷをするときに少量のミルクをよく吐きます。年長児ではかぜや胃腸炎で嘔吐することが多いですが、重い感染症や腸閉塞などの消化器官の異常、糖尿病などの代謝の病気でも嘔吐が起こります。



急いで受診

の目安

- ☐ 生後 3 か月未満の乳児が熱を出して吐いた
- ☐ 繰り返し吐いて、元気がなく、ぐったりしている
- ☐ 嘔吐物に胆汁（黄緑色の嘔吐物）や血液（赤黒い嘔吐物）がたくさん混じっている
- ☐ 頭を強く打った後、24 時間以内に吐いた

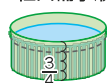
- 吐いたらむせないようすぐふき取り、口をすすぎましょう。
- 嘔吐物のおいが残らないよう着替えさせ、空気を入れ換えましょう。
- 嘔吐物はいつ食べたものか確認しましょう。
- 吐き気があれば、うつぶせか横向きにしましょう。

◆◆◆ 解説 ◆◆◆

- 高熱があって吐き続けている場合には、髄膜炎や脳炎が考えられるので受診が必要です。
- 嘔吐が続くと脱水症になることがあります。うとうとしている場合は重症と考えられます。
- 血液や胆汁を吐いている時は、腸からの出血や腸閉塞などの重い疾患である可能性があります。
- 事故などで頭を強く打った場合は、落ち着いているように見えても入浴やシャワーは控え、1、2 日は様子を観察してください。頭を強く痛がったり、嘔吐したり、発熱した場合は、頭蓋内出血の恐れがありますので受診が必要です。
- 嘔吐に続いて下痢をしたり、お腹を痛がったりする場合は、ウイルスや細菌による胃腸炎がほとんどです。機嫌が良くて元気のある時は、吐かない程度に経口補水液で少しずつ水分を取らせ、家庭で経過を観察しましょう。
- 水分補給の方法

嘔吐した

5～10分待つて 5ml程度の少量から
経口補水液を 5分おきに与える



目安はティースプーン
1杯またはペットボトル
のキャップ 3/4 程度

それでも吐く
重症でなければ経口
補水液を5ml程度、5分
おきに与え続ける
重症ならすぐ受診

嘔吐が治まった
与える量を50～
100mlに徐々に
増やす

上記解説や
p16 参照

下痢をしたら

下痢は便が軟らかくなる症状ですが、程度が軽ければ心配のない場合が多いものです。母乳を飲んでいる乳児は、軟らかい便が 1 日に 5、6 回出ことは普通です。血液が混じっていたり、下痢便の量や回数が普段に比べ極端に多かったり、熱や嘔吐を伴う場合は要注意です。



急いで受診

の目安

- ☐ 粘血便（いちごジャムのような赤い便で血が混じっている）が出る
- ☐ 水分がとれない 尿がでない
- ☐ 繰り返し下痢をし、元気がない